

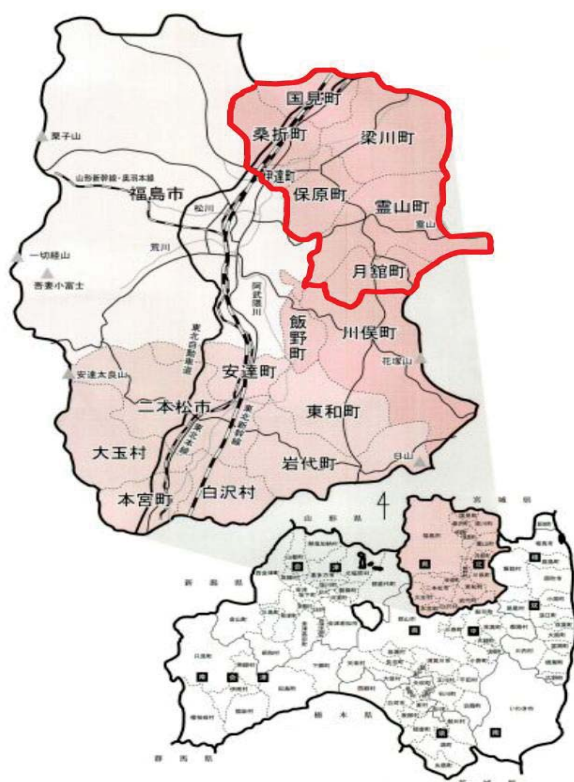
放射性物質に関するリスクコミュニケーション資料

福島原発震災復興担当参与 数又清市

1. JA伊達みらいの概要
2. 歴史ある産地を守りたい一心(果樹除染・水田Cs吸収抑制対策)
3. 限りなくNDを目指した果樹の除染実績
4. あんぽ柿産地再生へ向けた取組み
5. JAにおける全戸自主検査体系
6. 平成25年度全戸全品目自主検査実績
7. 原発事故前後(22～25年度)青果物販売変遷

JA伊達みらいの位置

位 置



福島県中通り北部

・JA伊達みらいは東京駅から北に280km、新幹線で福島駅まで90分の距離に位置しています。

・福島県の県北地方、福島盆地の北部に位置し、北隣りが宮城県白石市です。

交通は東北新幹線、東北本線、東北自動車道、国道4号線が南北に伸びる交通上の要所となっています。

北西部には海拔863mの半田山、東部には相馬市との境に海拔825mの霊山を最高峰に阿武隈山系の山々が連なる盆地であります。

水系は伊達地域の中央を流れる阿武隈水系に属し、これら中小河川の流域に沿って平地が形作られ農産物の作りやすい耕地となっております。

JA伊達みらいの気候

気 候

奥羽山脈と阿武隈山地に挟まれ、自然環境に恵まれた盆地特有の気候です。

盆地のため、内陸性気候に属し、春は日照時間が多く、空気は乾燥し、気温は急速に上昇しますが、5月半ば頃までは遅霜のおそれがあります。

夏は最高気温が36度と高温多湿、冬は最低気温マイナス5度とやや低温となりますが積雪は平均10cm程度と比較的少なく、東北地方としては温暖な地域です。

年間平均気温は、10～13℃、年間総雨量は1,100～1,300mmと、水稻・野菜・果樹の栽培に適した環境です。

福島県県北地方の気候

月別	平均気温(℃)	降水量(mm)	最大日降水量(mm)	日照時間(hr)	最深積雪(cm)
3月	4.5	68.5	66.7	185.6	43
4月	11.1	73.9	112	190.9	22
5月	16.6	83.8	78.6	204.8	—
6月	19.9	117	141.8	141	—
7月	23.5	137.2	139.7	135.6	—
8月	25.2	131.9	169.5	164.6	—
9月	20.5	159.5	159.5	114.9	—
10月	14.2	99.1	87	137.7	—
11月	8.7	60.4	136.4	130.9	21
12月	3.8	42.9	80	130.3	42
1月	1.1	44.7	55.2	137	77
2月	1.4	50.5	65.4	144.5	80

JA伊達みらいの誕生

合併の経緯

・平成 7年3月 福島県伊達郡の6町6JAが合併

保原町農業協同組合 桑折町農業協同組合 福島国見町農業協同組合
伊達町農業協同組合 霊山町農業協同組合 福島月舘町農業協同組合

・平成 9年3月 梁川町農業協同組合と合併し、新生JA伊達みらい誕生

平成18年1月 市町村合併で5町が合併して1市2町に
伊達市(保原町 伊達町 霊山町 月舘町 梁川町) 桑折町 国見町

合併当時と現在の比較

	平成 9年度末
組 合 員	18, 646人
(うち准組合員)	(7, 145人)
出資金	38億7755万円
役 員	43人
(うち常勤理事)	5人
正職員数	462人
准職員	144人



平成24年度2月末	比 較
30, 333人	11, 687 人
(18, 990人)	(11, 845 人)
41億48903円	3億7611万円
43人	± 0人
5人	± 0人
385人	▲ 77人
153人	+9人

歴史ある産地を守りたい一心

果樹の除染・洗浄：水田吸収抑制対策作業

“全ての作業は共同作業・同一の目線で担保”



厳寒期・高圧洗浄機による洗浄の共同作業
一市二町で390班体制・延35,000人
(終了後は全員の健康診断実施)
管内の土壌調査500メッシュ・マップ作成



水田の吸収抑制資材散布 管内90台
のトラクターで共同作業
10a／ゼオライト200kg、珪酸カリ200kg
(終了後は全員の健康診断実施)
管内土壌調査100メッシュ 約3,000ヶ所
(耕作前・収穫後は現在実施計画)

4

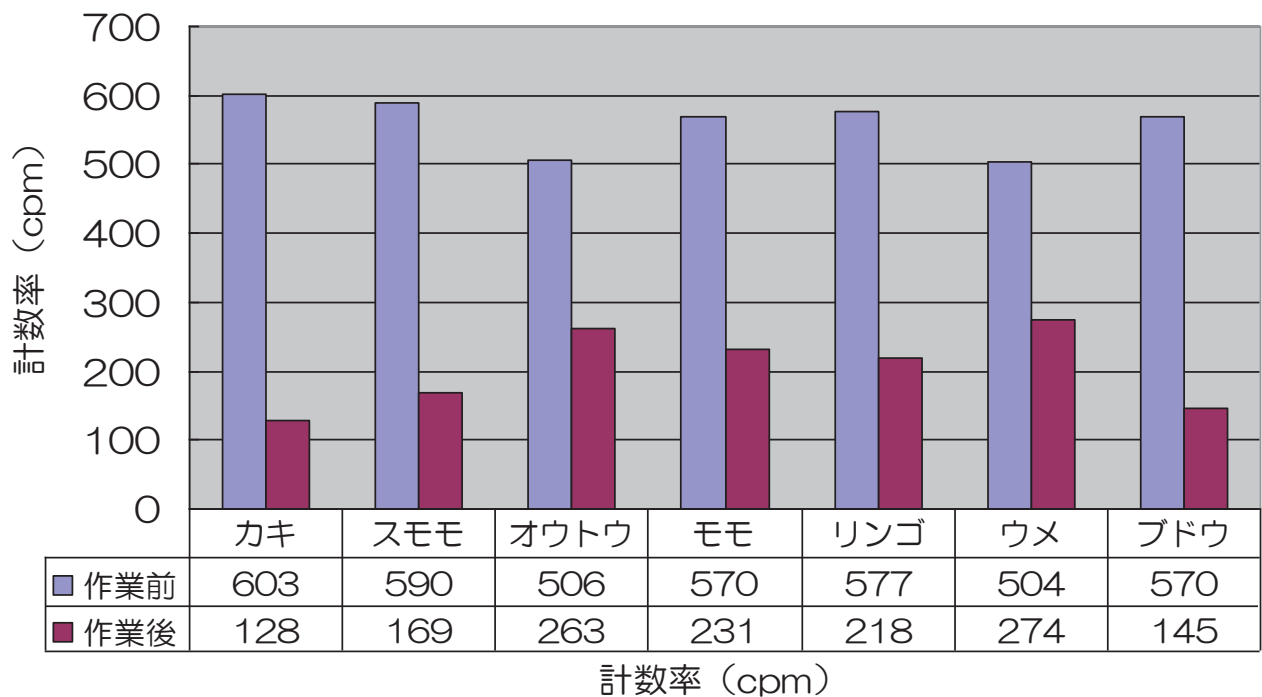
限りなくNDを目指した果樹の除染実績

樹種別	処理本数	作業箇所	樹種別	処理本数	作業箇所
桃	199,896	8,938	ぶどう	8,736	846
柿	257,517	24,847	柚子	356	98
梅	11,839	2,563	栗	616	137
りんご	30,197	1,620	プルーン	200	44
梨	794	230	すもも	2,057	150
無花果	6,611	183	びわ	36	19
プラム	9,894	1,019	花梨	51	29
銀杏	649	50	ざくろ	141	31
洋梨	3,367	125	ブルーベリー	243	4
さくらんぼ	5,931	428	杏	878	93
キウイ	873	139	その他	8,634	724
樹種 22 種類	処理本数 549,516	作業箇所数 42,317			

5

果樹除染による樹皮の高圧洗浄効果

○果樹低減対策高圧洗浄処理の効果



6

あんぽ柿産地再生へ向けた取組み

平成25年度対策

1. 安全な原料柿の確保(加工再開モデル地区の設定)
幼果期Cs分析(7月、加工モデル地区設定) 収穫前Cs分析(モデル地区の全圃場)
2. 非破壊検査機器による製品全量検査(機器の開発・機器の導入) 3箇所の検査所
出荷規格: 平核無柿200gトレー、蜂屋柿230gトレー毎の検査(1c/s 8トレー入り)
スクリーニングレベル50Bq/kg(箱内1トレーでも超過した場合は箱ごと廃棄)
3. 農業生産工程管理(GAP)の導入
4. 販売再開のPR、重点取引市場等への再開周知
5. 強剪定の実施

あんぽ柿復興・再生・出荷再開式(2013.1202)

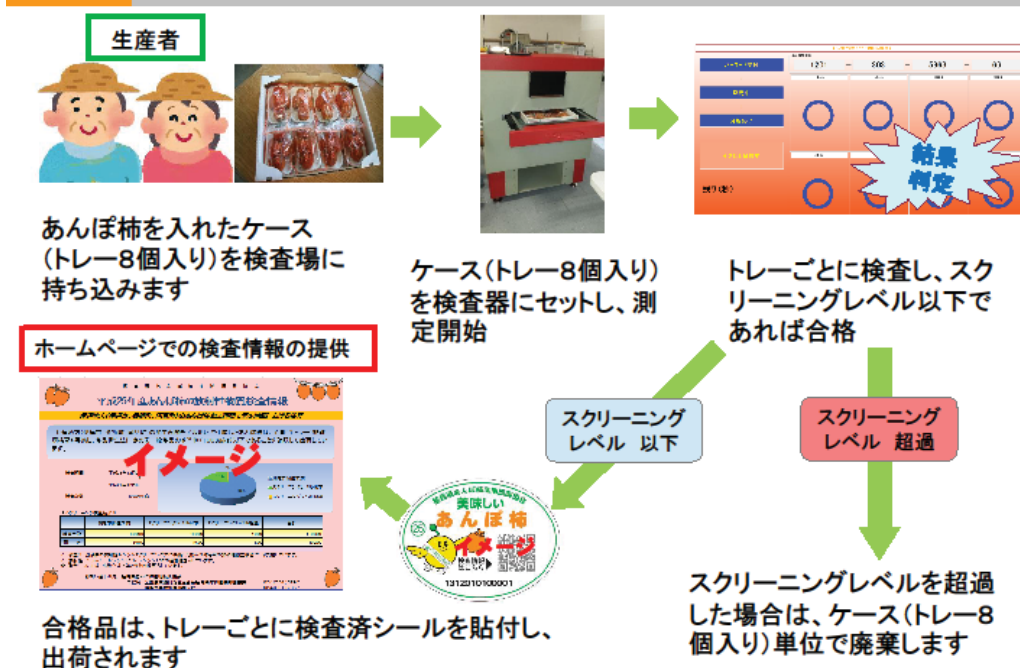


あんぽ柿非破壊検査状況(梁川検査所)

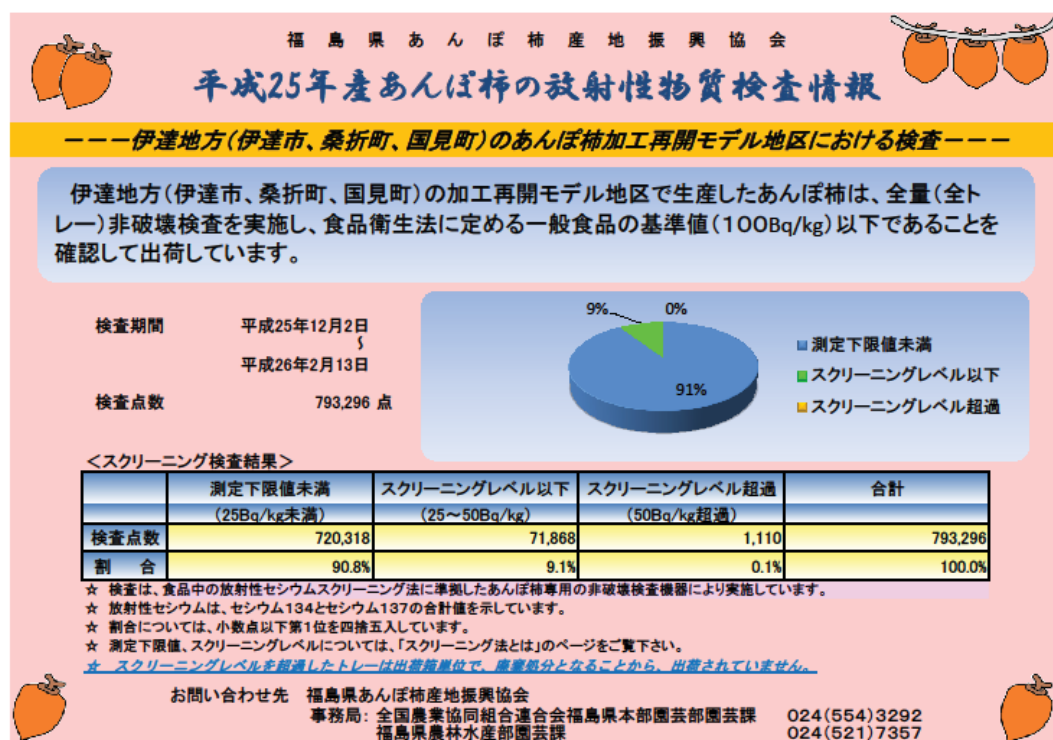


7

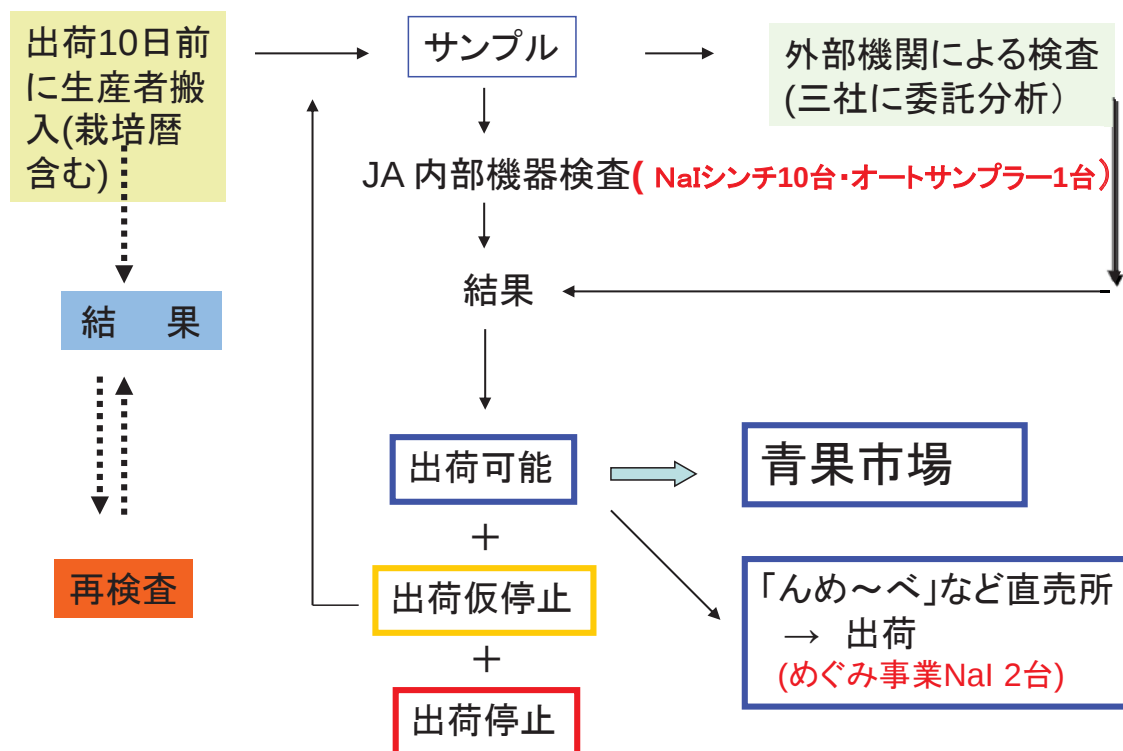
あんぽ柿の非破壊検査の流れ



平成25年産あんぽ柿の放射性物質検査情報(JA全農福島HP掲載)



JA伊達みらいにおける全戸自主検査体系 「考え方の基本、ISO9001:2008の運用」



10

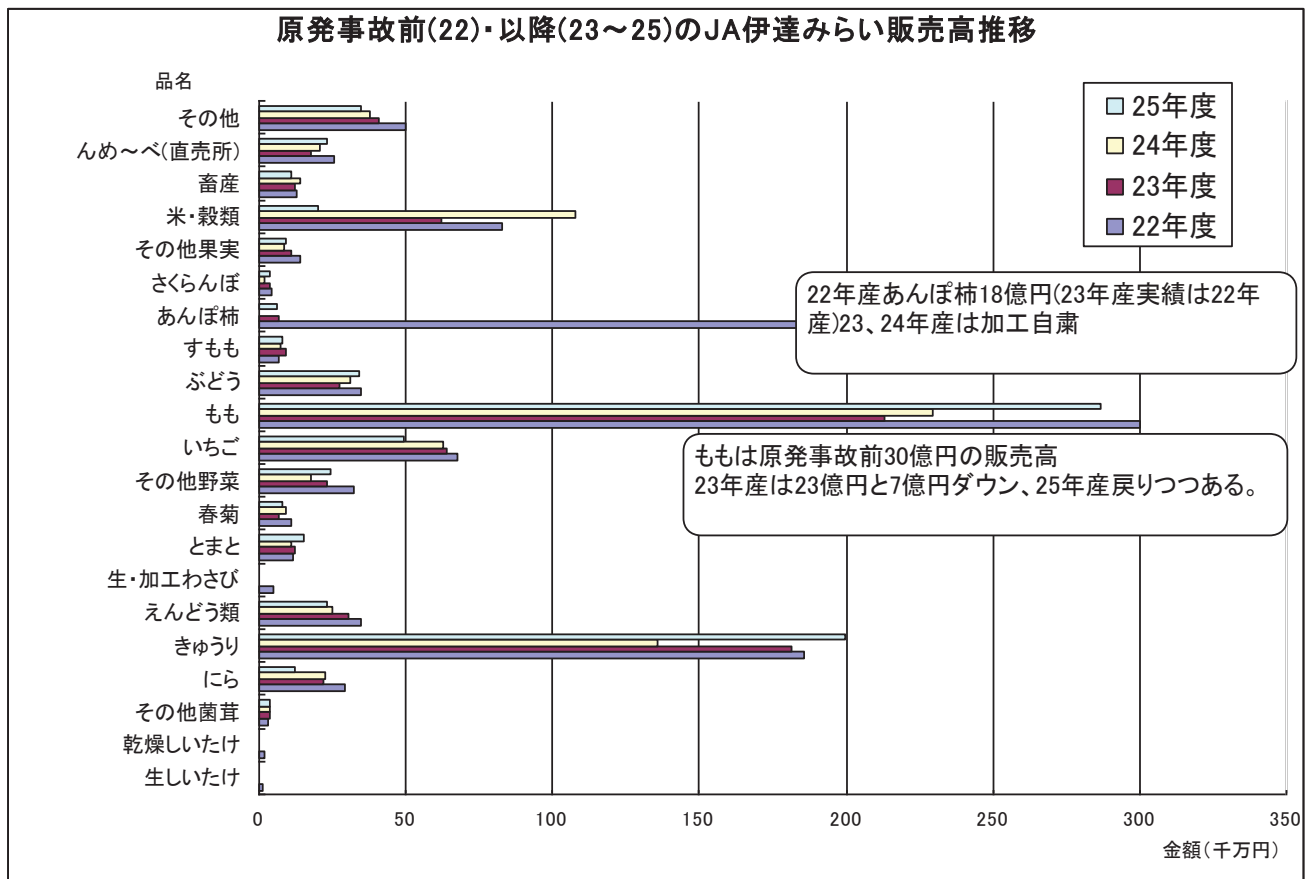
JA伊達みらいにおける全戸全品目自主検査体制

(平成25年3月1日～平成26年2月28日現在)分析数:検体数、穀類の玄米は別途全袋検査)

JA 内部での検査・()内検査数は加工品		
品目	種類	分析数
野菜	141 (22)	8, 246 (30)
果物	38 (8)	2, 391 (10)
穀類	12	164
きのこ	11	62
山菜	13	234
計	215 (30)	11, 097 (40)
外部委託検査		
品目	種類	分析数
野菜	0	0
果物	1	3, 113
山菜	0	0
計	1	3, 113
合計	216 (30)	14, 210 (40)

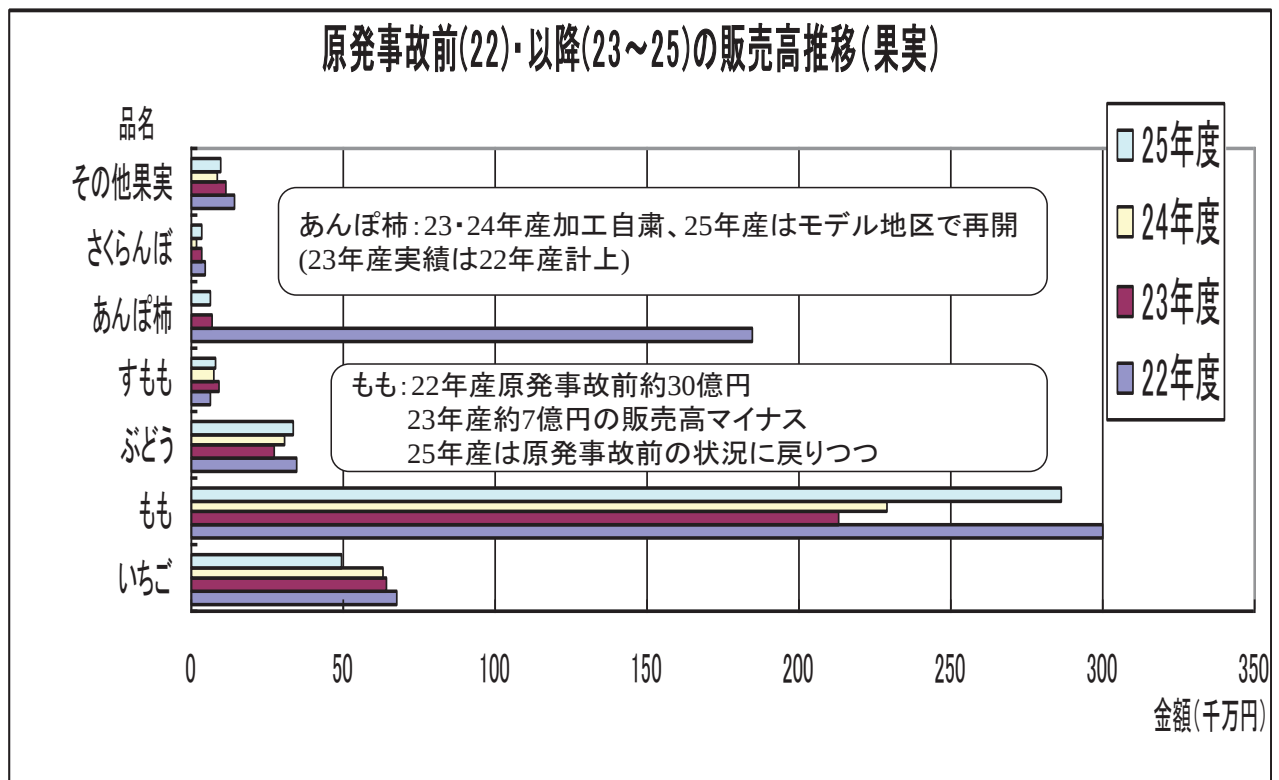
11

「風評害の実態」 福島第一原発事故前後の青果物販売変遷



12

果実の販売高推移



13

野菜の販売高推移

